

# 地域経済の気になる話題

## 「第1バース」、今年度内整備完了

### ハンディマックス接岸へ前進 **八代港**



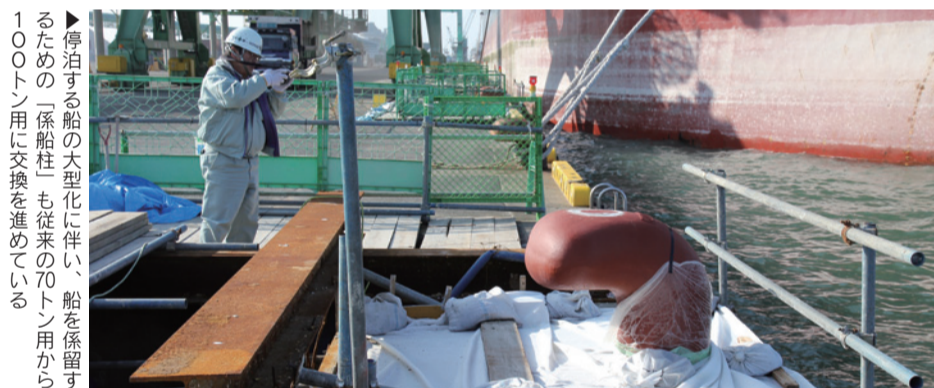
「グラブ」と呼ばれるバケットで砂泥をすくう作業船。砂泥は港南側にある埋立地、加賀島地区に運搬船で運ばれる



▲穀物輸入のバシフィックグレンセンター八代支店前の「第1バース」に停泊するアルゼンチンからの飼料船。6万トン超のバナマックスサイズだが、積み荷を調整し入港している。14m化でこうしたロスが解消できるという。船の裏手にしゅんせつ用の作業船、第2バースは右手、小型の船が停泊する辺りとなる。

八代港外港ふ頭で進む水深14m、5.5万トン級岸壁の整備が大詰めを迎えている。既存の水深12m岸壁（延長480m）のうち、延長280mの第1バースは今年度内の整備完了を見込んでおり、現在、岸壁前ではしゅんせつ用のクレーン船が、海底の砂泥をすくい上げる作業のピッチを上げている。供用は今年4月以降で、積み荷を満載した5.5万トン級のハンディマックスサイズ船舶の接岸が可能とあつて輸送コスト削減や、飼料関連企業の進出にも期待がかかる。

国土交通省熊本港湾・空港事務所八代港分室によると、来年度以降も同港西の沖合いに浮かぶ大築島付近までの航路しゅんせつを進め、19年度完了を目指す。同港は10年に国の重点港湾の指定を受けており、地元では第1バース北側に隣接する第2バース早期着工の声も根強い。



▶停泊する船の大型化に伴い、船を係留するための「係船柱」も従来の70トン用から100トン用に交換を進めている



▶西上空から見た八代港。白い点線部分が14m岸壁となる

## 分譲マンションの建設相次ぐ

### 「駆け込み」と「在庫減」が後押し



▲分譲マンションや賃貸住宅の建設が相次ぐJR熊本駅周辺。白川口側では、第一交通産業が「グランドパレス熊本」（中央手前）、明和不動産が投資型複合マンション「ラ・シック セリーズ」（左）を建設している

▶中央区千葉城町で着工した11階建て分譲マンション「アンピール熊本城II」。新築住宅が供給する物件で、昨年完成した「アンピール熊本城」の隣接地

◀作州商事が販売する「エイルマンション慶徳イクシオ」（中央区慶徳堀町）。1月に完成した



熊本市ではマンションの建設ラッシュとなっている。同市における分譲マンションの新規供給はリーマンショック後に大幅に減少。在庫調整が進むと同時に、消費税増税前の駆け込み需要を見込んで、デベロッパーが積極的に開発に動いている。

JR熊本駅周辺の白川口側では、第一交通産業（北九州市）が15階建て分譲マンション、（株）明和不動産（熊本市）が分譲と賃貸が一体となった投資型複合マンションを建設中。新幹線口側では、あなぶき興産九州（福岡市）が12階建てを供給する。

中心部では、大和ハウス工業（大阪市）が上通アーケードに隣接する立地に13階建てを着工。新築住宅（福岡市）が千葉城町、作州商事（福岡市）が慶徳堀町、九電不動産（福岡市）が鍛冶屋町、アルパクリ

エイト（福岡市）が中央街でマンションを建設・販売している。

地場では、（株）ホームステージ（田邊勝宣社長）が北区榎木に県内2棟目を建設中。誠伸住宅（大嶋節生社長）が手掛ける東区尾ノ上の物件は2月に完成の予定。

そのほか、（株）アイランド（福岡市）が中央区本山町と東区長嶺南、（株）エストラスト（山口県）が西区上熊本、（株）穴吹工務店（香川県）が中央区新屋敷、作州商事が北区武蔵ヶ丘で分譲マンションを建設している。